

7.「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン

1)はじめに

平成 29 年度から、文部科学省の多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン事業のもと、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」事業を展開してきた。本学は、高知県立大学大学院・岡山大学大学院・徳島大学大学院・広島大学大学院・山口大学大学院の 5 つの大学院で組織されるがん高度実践看護師 WG の幹事校として、がん看護専門看護師の養成およびがん看護の質向上に向けた取り組みを行ってきた。平成 3 年度には、38 単位のがん高度実践看護師教育課程は更新審査を受審し再認定をされた。令和 4 年度は 1 名の修了生ががん看護専門看護師の認定を受けた。

第 3 期 6 年目となった令和 4 年度は、高知県立大学の学長裁量経費の助成を得て、がん高度実践看護師の育成、看護職の看護実践応力の向上を目指す教育活動に取り組んだ。

2)がん高度実践看護師WGの活動

がん高度実践看護師 WG では、「1. がん高度実践看護師の養成」「2. がん看護の質向上への貢献」を 2 つの活動テーマに挙げ、①各大学によるがん高度実践看護師の育成、②がん高度実践看護師リカレントコースの開講、③がん高度実践看護師 WG 講演会の開催、④11 大学院チーム医療合同演習への参加(教員は FD)⑤HP などによる広報活動、⑥各大学におけるセミナー・特別講義の開催、⑦修了生に対するがん看護 CNS 認定試験までのサポートの 7 つの活動に取り組んだ。

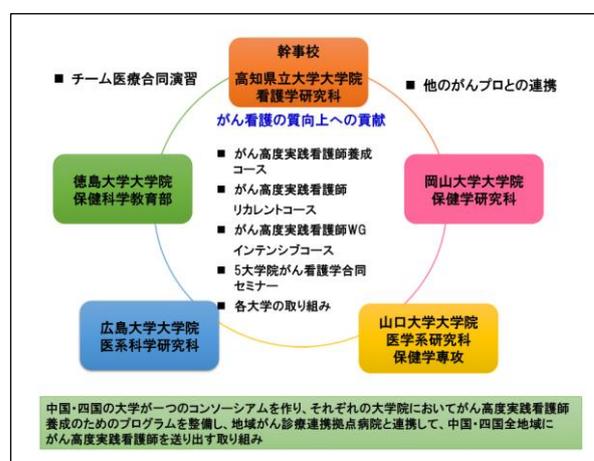


図 1 がん高度実践看護師 WG の活動

3)高知県立大学の取り組み

高知県立大学大学院では、「1.がん高度実践看護師の養成」、「2. がん医療における質の高いがん看護実践の推進」の 2 つを活動のテーマとしている。

がん高度実践看護師の養成では、38 単位の教育課程のプログラムに加え、がん看護実践を豊かにする取り組みを行っている。令和 4 年度は、がん看護インテンシブコース、がん高度実践看護師(APN)コースを開講した。

(1)がん高度実践看護師の実践力を豊かにする取り組み

令和 4 年度は、がん看護実践看護師教育課程に加え、がん看護実践を豊かにする取り組みとして、以下のような取り組みを行った。

①がん高度実践看護師(APN)セミナー

専門看護師の 6 つの役割機能とがん看護専門看護師の高度な看護実践について学びを深めることを目的として、高知県の様々な臨床現場で活躍している修了生のがん看護専門看護師によるセミナーを開催している。

- ・日時：令和 4 年 6 月 2 日(木)、6 月 9 日(木)、6 月 23 日(木)、6 月 29 日(水)、
7 月 6 日(水)、7 月 20 日(水)、7 月 21 日(木) の 18:30~20:30
- ・場所：高知県立大学看護学部棟 C322 対面と Web(Zoom)開催
- ・参加者：各回 2~3 名(がん看護学領域学生 6 日間のべ人数 17 名)

高知県内で活躍する修了生のがん看護専門看護師より、高度実践看護師としての役割機能別に、実践事例、倫理調整、コンサルテーション、コーディネーション、教育の事例など、活動の実際についてご

講義いただいた。

学生は、先輩の活動から、授業で学んでいる理論や概念・研究がどのように看護実践で活用されているか、多職種協働のため、組織分析や価値観の把握や専門看護師の思考のプロセスの可視化や伝え方の戦略、倫理的感受性を高める取り組み等、学びを深めた。専門看護師の役割機能について、病棟や外来、緩和ケアチーム等での具体的な実践を学ぶことで、学生自身が、現在の自己に向き合いながら、今後、学生が目指していく高度実践看護師についての目標や課題を見出すことができていた。

②がん高度実践看護師(APN)コース I：専門看護師の育成

◆Life を支える高度実践看護師養成コース

～がん患者と家族のライフステージのニーズに応える高度実践看護師養成～

- ・目的：がん患者と家族のライフステージのニーズに応えるがん高度実践看護師および、がん看護をサブスペシャリティとする高度実践看護師の養成
- ・対象者：高度実践看護師コースに在学中の学生
- ・コース内容：がん高度実践看護師(APN)コース II と同じ
- ・受講者：3名(がん看護領域3名)

(2)看護職の看護実践応力の向上を目指す教育活動

①がん高度実践看護師(APN)コース II：専門看護師・認定看護師のリカレント教育

～Cancer Trajectory をたどる人のニーズに応える高度実践を創造する看護師の養成～

《コースの概要》

- ・目的：ライフステージやがんの特性を考慮して、がんとともに生きる人とその家族の健康と生活に関わるニーズに応えられる専門性の高い実践ができる看護師の養成
- ・テーマ：がんゲノム医療における患者のケアとキュア
- ・対象者：専門看護師、大学院修士課程修了者、がん看護、遺伝看護に関連する認定看護師
- ・履修科目：4単位 60時間
がんゲノム看護基盤論、がんゲノム診断治療学、がんゲノム看護実践論、がんゲノム看護展開論
- ・履修期間：令和4年9月10日(土)、11日(日)、10月15日(土)、16日(日)、11月12日(土)、13日(日)、12月17日(土)、18日(日)の8日間
- ・開催方法：Web 開催(Zoom)
- ・場所：高知県立大学池キャンパス看護学部棟 Web(Zoom)開催
- ・修了要件：コースで定める60時間のうち各科目8割以上履修した者には、高知県立大学から修了証を交付
- ・受講者：53名、うち47名修了

授業科目 「がんゲノム医療におけるケアとキュア」

科目名	授業の概要・e-learning
1. がんゲノム診断治療学 1単位 (15時間)	がんゲノム医療における専門的知識を習得し、がんゲノム医療を予防・診断・治療・予後予測の側面から説明できる。 <達成目標> ①がんゲノム医療における基礎知識を説明できる。 ②遺伝性腫瘍の基礎知識を説明できる。 ③がんゲノム医療における薬物療法の基礎知識や多職種連携について説明できる。 【e-learning】 ・染色体・遺伝子検査とその応用
2. がんゲノム看護基盤論	がんゲノム医療における患者・家族の身体的、心理的かつ社会的な特徴を理解すると共に、看護実践の基盤となる諸理論と、がんゲノム医療と倫理・社会的問題について遺伝学的検査の結果の取り扱いやプライバシーおよび倫理的思考について学修する。

1 単位 (15 時間)	<達成目標> ①がんゲノム医療における患者への看護の基盤となる諸理論、ならびにその活用法について理解する。 ②がんゲノム医療と倫理について理解し、倫理的思考に基づく看護の役割について説明できる。 ③がんゲノム医療に関わる患者の身体的、心理的かつ社会的な特徴を理解する。
3. がんゲノム 看護実践論 1 単位 (15 時間)	がんゲノム医療における患者、家族の遺伝的、身体的、心理社会的特徴を理解し、それらに基づいた看護援助を説明できる。 <達成目標> ①がんゲノム医療における患者・家族の特徴を包括的にアセスメントできる。 ②がんゲノム医療における患者・家族の特徴を理解し、看護ケアを提案することができる。 ③がんゲノム医療における患者・家族の社会的な支援・施策を理解し、適切な社会資源を活用できる。
4. がんゲノム 看護展開論 1 単位 (15 時間)	科目 1～3 の学修を踏まえて、高度実践看護師として、エビデンスに基づいた看護実践を展開できる能力を獲得し、患者・家族への看護援助について考える。 多施設や多職種との連携の実際を学び、自施設で関わるがんゲノム医療の課題や今後の取り組みを考える。 <達成目標> ①がんゲノム医療における患者・家族の予防・診断・治療のプロセスに応じた看護ケアを説明できる。 ②がんゲノム医療における患者・家族の意思決定支援について考えることができる ③自施設のがんゲノム医療における患者・家族に対して、既習した理論を活用した看護援助や体制づくりを考えることができる。

がん高度実践看護師 (APN) コース II は、専門看護師・認定看護師のリカレント教育を目的としたプログラムである。

令和 4 年度は、『がんゲノム医療における患者のケアとキュア』をテーマに、がんゲノム医療の診断や治療、がんゲノム医療における看護に関する専門的な知識や技術を学び、がんゲノム医療における患者のニーズに対応することのできる専門性の高い看護実践力の修得を目指して実施し、47 名の修了生を輩出した。

中国地方 (鳥取 4 名、島根 3 名、岡山 8 名、広島 12 名、山口 4 名)・四国地方 (愛媛 2 名、香川 4 名、徳島 1 名、高知 14 名) 全県、近畿地方 (奈良 1 名、兵庫 1 名) より 53 名の参加があった。

受講生は、がん看護専門看護師 18 名、がん化学療法看護認定看護師 18 名、がん放射線療法看護認定看護師 2 名、乳がん看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師 2 名、緩和ケア認定看護師 6 名、不妊症看護認定看護師 1 名であった。

受講生の所属施設は、診療所や訪問看護ステーション、病院等であり、がん医療やがんゲノム医療における役割も様々であり、受講生は、これからがんゲノム医療における学びを深める方、今後、がんゲノム医療における役割を担う予定の方、現在、がんゲノム医療のコーディネーターとして関わっている方などであった。

8 日間のコースでは、講義やグループワーク等で知識を修得したのち、終盤の看護展開論において、がんゲノム医療に関わる役割の異なる施設のがん看護専門看護師に実際の活動を学んだ。

最終日は、既習の理論や知識、技術、現状と課題を踏まえ、事前課題として受講生全員が自施設の組織を分析し作成した「がんゲノム医療に焦点を当てた実践計画書」をグループで検討した。

グループは、受講生の所属施設のがんゲノム医療における役割を考慮したグループ分けを行い、グループワークと発表の方法については、発表内容の要点を共有したのち、設定された時間内で受講生がタイムマネジメントを行い、グループで発表方法を選択し、作成したパワーポイントや Word 文書の提示、または口頭等で全体に発表し、質疑応答を行った。

《受講生の評価》

アンケートの結果、本コースが専門性の高い看護実践力の修得に「十分つながった 31 名 (68.9%)」「ある程度つながった 14 名 (31.1%)」との回答があった。自由記載では、「今まで難しいと感じていたがんゲノム医療が、今回の研修では診断の基礎から看護介入までわかりやすかった」「この患者さんもゲノム対象ではないかと気づきを得た」「がんゲノム医療拠点病院ではなくても繋げることで、受ける事の役割を再認識することができ家族への支援に活用していきたい」「グループワークで様々な貴重な意見を交換でき、自施設の現状を把握し必要な看護ケアや自分自身が行わなければならない事を考えることができ非常に貴重な時間だった」などの意見があった。がんゲノム医療における患者への看護実践に向けての知識の統合と患者理解を深めることができた。また、自施設を分析し、様々な施設の現状を共有し検討することで、所属施設や受講生の担う役割による違い、自施設で受講生の立場で実践できること、多施設との連携について等、新たな視点や学びを得ることができた。

《活動評価》

2年連続でWeb開催となった。今年度は、Web開催で最終月の12月のみハイブリッド開催を予定し、受講生56名のうち16名が現地での受講希望があった。しかしCOVID-19の影響により全日Web開催となった。現地受講や受講生同士の交流についての希望があるため、今後もWebと対面のメリット生かした効果的な研修内容や方法を検討していく必要がある。アンケートや研修終了後の修了報告書で、本コースの学びを現場で実施できている報告もあり、本研修は、がんゲノム医療における患者の特徴を踏まえた看護の専門的知識や技術の修得につながっていると考える。

例年、看護展開論において事例展開を行っていたが、今年度のテーマであるがんゲノム医療については、多くの受講生は看護実践経験が少ないことや、所属している施設の状況が異なることから、自施設の組織分析を行いがんゲノム医療における実践計画を考え検討する内容を試みた。

アンケート、修了報告書等より、組織分析の重要性を実感するとともに、研修後の実践につながることから、今後、テーマや内容によって、事例展開や実践計画を選択または組み合わせる等検討することで、より効果的な研修につながると考える。

②インテンシブコース：がん高度実践看護師WG講演会

- ・日時：令和4年7月30日(土)13:00~16:30
- ・場所：高知県立大学池キャンパス Web(Zoom)開催
- ・テーマ：がんと認知症を併せもつ患者の治療選択への意思決定支援
- ・講師/テーマ

小川 朝生 先生

(国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科長
先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野長)

「認知症を併存している高齢がん患者の治療選択と意思決定支援」

田代 真理 先生

(聖路加国際大学教育センター/悠翔会在宅クリニック がん看護専門看護師)

「がんと認知症を併せもつ患者のアセスメントと意思決定支援～治療選択に焦点をあてて～」

- ・参加者：214名

がん高度実践看護師WGでは、「ライフステージの様々な新ニーズに応える看護の質向上を推進する看護師養成」を全体テーマとし、令和4年度は「がんと認知症を併せもつ患者の治療選択への意思決定支援」をテーマに講演会を開催した。講演会には、中四国全県、関東から九州まで、医師、看護師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士等、214名の参加があった。

『認知症を併存している高齢がん患者の治療選択と意思決定支援』では、認知症を理解するために必要な知識や実践やそれらを踏まえた高齢がん患者の意思決定について詳しく学び、『がんと認知症を併せもつ患者のアセスメントと意思決定支援』では、高齢者の特徴、がんと認知症について、看護師の視点からアセスメントや看護実践の実際等、看護師の役割について学ぶことができる内容であった。また、多職種

が実践につなげることができる内容であった。

参加者アンケートの結果、講演会の内容について具体的に「よくわかった 111 名(82.2%)」「まあまあわかった 23 名(17%)」、講演会に「満足 92 名(68.1%)」「ほぼ満足 42 名(31.1%)」との回答があり「知識だけでなく具体的に患者さんをアセスメントする視点や関わり方などを知ることができ、認知症とがんを併せもつ患者への看護について学びが深まった」との意見から、専門性が高まったと考えられる。COVID-19 の影響があったが、参加者は、中四国全県を中心に、医療現場や地域など様々な場所で勤務している医師、看護師、MSW、管理栄養士、言語聴覚士等の職種であった。関心の高いテーマを取り上げたことで、それぞれの多様なニーズに応えることにつながった Web 講演会であったと考える。

4) 第3期 中国四国がんプロコンソーシアム 高知県立大学院の総括

第3期(平成29年度～令和3年度)のがんプロフェッショナル養成プランの中国・四国の「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」事業に引き続き、本年度も、【取り組み1】高知県立大学においてがん高度実践看護師WG講演会、【取り組み2】がん高度実践看護師(APN)コースⅠ・Ⅱを開催した。

【取り組み1】がん高度実践看護師WG講演会の6年間のテーマと受講者数

開催年度	テーマ	受講者
平成29年度	小児がんの治療と高度な看護実践	35名
平成30年度	AYA世代を支えるがん看護 －看護師ができること、伝えたいこと－	72名
令和元年度	働く世代のがん患者を支えるがん看護	25名
令和2年度	遺伝性腫瘍と生きる患者へのがん看護 (web開催)	79名
令和3年度	高齢がん患者のアドバンス ケア プランニング (web開催)	261名
令和4年度	がんと認知症を併せもつ患者の治療選択への意思決定支援 (web開催)	214名
合計		686名

【取り組み2】

がん高度実践看護師(APN)コースⅠ・Ⅱ リカレント教育(8日間全日出席コース)

～Cancer Trajectoryをたどる人のニーズに応える高度実践を創造する看護師養成～

開催年度	テーマ	受講者	修了者(割合)
平成29年度	小児がんの子どものケア	12名	7名(58.3%)
平成30年度	高齢がん患者の治療とケア	29名	18名(62.0%)
令和元年度	AYA世代がん患者のケアとキュア	15名	10名(66.7%)
令和2年度	高齢がん患者の治療とケア アドバンスト編	35名	33名(94.2%)
令和3年度	AYA世代がん患者のケアとキュア アドバンスト編	36名	30名(83.3%)
令和4年度	がんゲノム医療における患者のケアとキュア	56名	47名(83.9%)
合計		183名	145名(79.2%)

5) おわりに

第3期(平成29年度～令和3年度)のがんプロフェッショナル養成プランにおいて本学はがん高度実践看護師WGの幹事校として活動を行い、本年度も引き続き取り組みを継続し、現在、修了生の46名ががん看護専門看護師として全国で活動している。今後は、第4期にむけて、今年度を含め、これまでの内容を評価し、新たな取り組みを模索したい。

- がん高度実践看護師養成
 - ・受験生確保とがん高度実践看護師教育課程の継続
 - ・がんプロ修了生によるAPNセミナーの継続
 - ・CNS認定試験受験の継続支援
- がん医療における質の高いがん看護実践の推進

・リカレント教育

- ① ジェネラリスト対象の教育活動
- ② スペシャリスト対象の教育活動

リカレント教育においては、がん医療におけるトピックスや興味関心の高いテーマの研修を企画し、高度実践看護師および地域の看護職の看護実践向上につながるよう研修内容の充実を図っていききたい。また、第3期6年間のうち、後半3年間はCOVID-19の影響を受け、対面での開催が困難となりオンライン開催となったが、オンライン開催により県内外の受講者数が増加し、コース修了者数が大幅に増加した。アンケート結果よりオンライン開催であっても学びを深めることができていることが示唆され、今後は研修内容に合わせた効果的な研修方法も検討していききたい。